

令和8年度学校評価自己評価表

東広島市立小谷小学校

学校教育目標 めざす児童像
 学び続ける力の育成 「笑顔あふれる学校(やる気・やさしさ・元気)」
 経営理念

「児童が学びたくなる」「教職員が誇りとやりがいをもてる」「保護者や地域が通わせたい」学校

中期 経営目標	短期 経営目標	子ども・ 学校の姿	目標達成のため の方策	達成目標	評価 担当	評価 時期	7月 評価	備考	12月 評価	備考	達成度及び改善方法	最終 評価	
自分を 見つけて 学ぶ 仲間と ともに 深く 学ぶ	・自己の課題や能力に応じて学びを深める児童を育成する。	・分かるための努力を惜しまず、「学ぶことが楽しい」と実感できる児童を育成する。	・解決に向かって主体的に学んでいる。	算数科：問い、対話、ICTなど、視点を明確にした授業実践 体育科：スタディ・ログの活用	研修 生徒指導 保健安全体育								
	・互いに認め合い、高まり合う集団を醸成する。	・友達の考えや思いを受け止め、認める集団を育成する。	・友達との関わりを大切にしている。	年間4回縦割り班遊びを設定し、異学年交流を充実させる。									「縦割り班でいろいろな学年の人と活動することは楽しい。」と思う児童の割合85%以上。
				認め合いを軸とした体育授業を推進する。									「体育の時間で、友達の良いところを見つけられましたか。」という質問に対して肯定的回答をする児童の割合80%以上。
コミュニ ティ・ スクー ルの 推進	(かかわる) 誰にでも、自分からコミュニケーションをとろうとする児童を育成する。	地域や保護者の方々に、進んであいさつなどをしようとする児童を育成する。	出会った人(地域の方・来訪者・先生・友達)に気持ちのよいあいさつをしている。	登校班・児童会を中心に、あいさつ名人の取組を行い、頑張りを称賛する。	生徒指導								
	(ふれあう) 様々な人と主体的に関わり、学校や学校以外の活動に積極的に取り組む児童を育成する。	自分のお世話になっている様々な人と関わり、相手のことを理解する児童を育成する。	地域の人やお世話になっている人とふれあう機会が増えている。	各教科等の授業、YDK教室、特別活動(委員会、クラブ、行事など)で地域の方々にご協力いただく機会を積極的に増やす。									総合的な学習の時間の学習・生活科・体育・家庭科・図画工作・算数などの授業にご協力いただく回数を各学年年間3回以上計画する。
	(ひろげる) 積極的に地域に貢献する児童を育成する。	様々な人の思いを理解し、自分にできることを考えることができる児童を育成する。	地域の人やお世話になっている人に感謝の気持ちを伝えたり、自分たちができることを考える機会が増えている。	生活科や総合的な学習の時間等を通して、気持ちの伝え方や自分たちができることを考えさせる。									「地域の人と活動することが楽しい。」と回答する1年生～2年生児童80%。「地域のために自分のできることを考えることができる。」と回答する3年生～6年生児童80%

評価基準 A : 目標を達成 ≧ B : ほぼ達成 (目標値まで10%以内) C : もう少し (目標値まで20%以内) D : 達成していない (目標値を21%以上下回る)